

教 え 子 を 再 び 戦 場 に 送 る な !

提出義務はありません

〇〇人権・同和教育カリキュラム 〇〇人権教育読本「にんげん実践調査」

市人研が、各学校に「人権・同和教育カリキュラム」と「にんげん実践調査」を提出するように求めています。

市人研(豊中市人権教育研究協議会)は任意の団体です。任意の団体がとろうとしている調査は、提出する義務はなく、市教委もあくまで「協力」であると言っています。

人権教育をすすめることは重要ですが、どんな教材でどのようなすすめていくかは、各学校・教師の自主性に任されています。

「協力依頼」であるはず

のものが、当然提出しなければならぬとされている状態はないでしょうか。

また、民間教育団体の研究会への参加は、当然自主的に行われるものですが、市人研・大人研主催の研究会への参加割り当てが行われていたり、絶対に参加しなければならぬという雰囲気はないでしょうか。

全教豊中教組は、毎年、市教委人権教育企画課と話し合う場を持っています。人権教育のご意見があれば、お聞かせください。

☆チケットあります☆

劇 「どうしてジャンケンできないの？」
～大阪空襲ものがたり～

3月11日(金)夜の部PM6:30

12日(土)昼の部PM2:00

夜の部PM6:00

会場 クレオ大阪西

(JR環状線 阪神なんば線「西九条」下車徒歩3分)

入場料 前売り券 2500円



全教

2011年3月4日

NO. 462

〒561-0874

豊中市長興寺南3-5-2

TEL (06) 6865-3190 FAX (06) 6865-3191

Eメール zenkyo-toyonaka@tcct.zaq.ne.jp

Webページ

<http://www.tcct.zaq.ne.jp/zenkyo-toyonaka/>

とよなか

全教豊中教職員組合

どうなる？豊中市の『救命力 世界一宣言』

千里救命救急センターへの補助金廃止！橋下知事

豊中市役所には「このま
ちいいな救命力世界一宣言」
という横断幕がかかげられ
ています。

○救命講習修了者数の人
口に対する割合が全国
でトップレベル
○救急隊数、救急救命士
数の市域面積に対する
割合も全国のトップレ
ベル

さらに、高度な救命処置
を担う医療機関が充実して
おり、千里救命救急センター
のドクターカー運用などに
より、救命に最適な体制が
とられ、世界で一番といえ
る程の高い救命率となつて
います。（「救命力世界一
宣言」より）

このようなことから、豊
中市の救命率は23.7%

（2008年救急蘇生統計）
という、世界でも断トツに
高い救命率となっています。

一次救急は消防署、二次
救急は市立豊中病院をはじめ
めとする9つの救急告示病
院、三次救急が千里救命セ
ンターや国立循環器センター
などです。

このうち、三次救急の整
備が都道府県の仕事になつ
ているのですが、五年前、
千里救命救急センターが府
から済生会千里病院に移管
されました。その際、五年
間は府が3.5億円の補助
金を出す約束でしたが、そ
の五年が過ぎるため、橋下
知事は補助を打ち切るとい
うのです。

年間5000件以上の搬
送がある千里センターの補

助金廃止によって、近い将
来、救命体制が維持できな
くなるのではという声が高
まっています。

※（北摂豊能の救命救急医
療を守る会）が府補助金継続
を求める署名に取り組んでい
ます。



救命センター

万博ジェットコース
ター事故や大教大付属
池田小事件、JR福知
山線事故などにも出動。
各市の救急隊員の教育、
年1万人以上受講する
救急講習などもおこなつ
ています。

救急車搬入数・DC(ドクター・カー)搬入数

	救急搬送件数	DC 搬送件数
平成 18 年	4182 件	1853 件
平成 19 年	3725 件	2005 件
平成 20 年	4332 件	2235 件
平成 21 年	4508 件	2511 件

2011年度全教豊中教組役員を選出

2月10日、豊中教組第124回定期大会が開かれました。

6月の大会以降の活動を三輪書記長がスライドを見せながらコンパクトに報告。

参加組合員からは、
◎子育てをしている若い

教職員が安心して働ける制度であってほしい(4中)

◎小規模校の困難さと教職員増を求める(北丘小)

◎臨時教職員の待遇改善を緊急に求める(3中)

◎大教組の教員採用試験

学習会に参加してとても励まされ、また力になった。今度は私が役に立てたら・・・(野畑小)

◎「教職員九条の会」で

沖繩平和ツアーに参加して学んだこと(東豊中小)

など、5名の発言がありま

した。いずれも、

20代から30代

の組合員の発言で

した。

また、2011

年度の組合の先頭

に立つ役員を圧倒

的多数の信任で選

出しました。

青年フェスタに650人
豊中から26人の参加

2月19日・20日に箕面観光ホテルで開催された青年フェスタは、青年教職員の熱気であふれました。

フェスタ実行委員には、豊中からも4名が参加し、企画や全体会の司会、バンド演奏、分科会のレポートに活躍しました。

また、恒例の大教済のくじ引きで、西丘小の小谷さん、東泉丘小の木田さんが3万円の旅行券を当てました。おめでとう！

選出された役員

執行委員長	池田和幸 (1中)
副執行委員長	木田好利子 (東泉丘小)
	廣嶋由美子 (箕輪)
書記長	三輪浩一 (桜塚小)
書記次長	藤木桂子 (寺内小)
	西山美樹 (熊野田小)
会計委員	中野淳子 (10中)
執行委員	奥村登志美 (泉丘小)
	突田行生 (14中)
	佐伯知香 (東豊中小)
	久保田百合 (5中)
	児玉光司 (東豊中小)
	武藤則子 (南丘小)
	高橋信也 (北条小)
	森田志乃 (1中)
会計監査	鍵田素子 (豊島西小)
	村上めづる (豊島小)
	北野礼子 (上野小)



輝け子どもたち―「人権教育」を考える 第四回

(5) 「部落問題学習」をやめることで問題は解決へ

21世紀を生きる子どもたちの世界に「部落問題」はありません。

「同和地区」という地区は存在しません。

学校の授業で被差別身分のことや部落問題を教え、教師がいくら部落差別の厳しさを強調しても、子どもたちの心をゆさぶることはできません。

若い教職員のみなさんで、部落問題を生活の中で体験した人はおられるでしょうか。学校や大学、研修で言われ続けてきたから「そういう問題があるんだ」と思っているのではないのでしょうか。

部落問題は基本的に解決された

21世紀の今日、部落問題は基本的に解決されたという現実があります。

教育委員会や校長に聞いてみましょう。

「同和地区ってまだあるんですか?」「どこですか?」

答弁不能でしょう。ひどい場合は「聞くことは差別者だ」と暴論が返ってくるかもしれません。

初めて知ったのは学校の授業で

大阪府や大阪市の市民意識調査では、「部落問題を初めて知ったのは」という質問について、20歳・30歳代の人は「学校の授業で教わった」というのが過半数です。50歳代以上では「父母や家族から聞いた」が2割を超えているのと比べると大

きな違いがあります。

地域に現実がないにもかかわらず、学校で教えることによつて意識化されています。

戦前から戦後すぐにかけて、さまざまな立場の人について、いろいろな蔑称が使われて

「特別な意識」は「部落問題学習」によつてつくられた

元中学校校長

今日、子どもたちの生活に部落

問題は存在しない。また、地区内にあつて、子どもたちに自らの被差別体験を語る親はなくなつているし、地区外でも間違つた考えを教えたり差別を肯定したりする人達もなくなつて来ている。

私たちが部落問題を教え始めたとき、子どもたちの「生活の事実」として部落問題が存在していた。それが、今日では子どもたちの普通の生活では地区の内外を問わず部落問題と出会う

きました。

しかし、実態が姿を消すとともに、いくつもの言葉が死語になつていきました。

部落問題の実態がないにもかかわらず、学校で教え、行政が啓発することで、いつまでも死語にならないところに大きな問題があります。

問題の第一は、子どもたちの部落問題の出会いが、学校の「部落問題学習」にあり、それが子どもたちの認識を決定づけることになつていふことである。現在、子どもたちの中にあらわれている「特別な意識」は「部落問題学習」によつてつくられたものであると言つてよい。それらを問題にするのであれば「部落問題学習」をやめれば解決する。